



No. 32
2011 Spring

山 松 舎
寺 南 臨

尻の肉がただれるまで

如浄禅師は道元禅師に語りかけます。「私はどこに行くにもいつも坐禅布団を携えてきた。時には岩の上でも坐禅した。そのため尻の肉がただれることも時々あった。しかし、そんなときこそ坐禅に打ち込んだものじゃ」

道元禅師が尋ねます。「一切の生きとし生けるものはみな仏であるという考え方は正しいのでしょうか？」

「それは間違いじゃ。何をやってもありのまままでよいというのは仏法ではない。自然外道じゃ」

この疑問は道元禅師が比叡山以来抱き続けてきたものです。答は道元禅師が自ら出さなければならぬものの、疑問そのものは今明確に否定されたのです。

心身脱落とは何か？

また、ある日のこと。「お師匠様は『参禅は心身脱落なり。焼香・礼拝・念仏・読経も必要ない。ただ坐禅して初めて得ることができるとおっしゃいます。心身脱落とはどういうことでしょうか？』

「心身脱落とは坐禅じゃ。ひたすら坐禅しているとき、欲望も煩惱も皆無じや」

心身脱落とは、身も心も一切のとりわれから離脱することで、悟りの境地をいいます。普通、悟りは坐禅の結果として得るものと考えがちですが、如浄禅師は「坐禅は悟りに他ならない」と言うのです。

そのときの道元禅師には理解しがたいことでした。しかし、道元禅師は如浄禅師の言葉をそのまま信じました。そして、昼夜を分かつたず眠る間も惜しんでひたすら坐禅に打ち込みました。それは中国僧をもしのぐ厳しい修行でした。如浄禅師もそれを見て驚くほどでした。

道元禅師が悟りを開く、そのときが目の前に迫ってきましたが、その話は次回ということにいたしました。

特集

道元禅師ものがたり ⑧

真の師に巡りあい 坐禅に打ち込む道元禅師



明全和尚は四十一歳で亡くなりました。異国の地で、ともに励ましあいながら修行してきた明全和尚と道元禅師。師として慕い、頼りになる友でもあった明全和尚の突然の死は、道元禅師の心に火をつけました。

一刻でも一日でも早く

「私もいつ死ぬかもしれない」
「明全和尚の分まで頑張らなければ」
「病気のことなど恐れてはいられない」
「私がいなくなると誰がやる」
「今日の一日、今の一瞬を大事にする」

のだ」

一刻も早く悟りを開き、坐禅の真髓を会得して、衆生の待つ日本へ伝えなければならぬ——そんな思いを、さらに強く心に刻み付けたのです。

道元禅師は、まず、如浄禅師に文書をしたためます。

「私の心に何か疑問が生まれたら、時間を問わず、また服装を正さずとも、方丈をおとなうことをお許しください」
それを読んだ如浄禅師はすぐに快諾しました。如浄禅師も真に道を求める弟子の出現を待ちわびていたのです。



三月二十四日は、春の彼岸会です

昼と夜の長さが同じになる春分の日の中日として、その前後三日ずつをあわせた「週間を」「お彼岸」と呼びます。今年は、十八日から二十四日までの一週間です。もともとは修行に最適な時期として設けられました。

迷いの世界であるこの世「此岸」に対して、「彼岸」は悟りの世界であるあの世のことです。お彼岸は、亡くなった人をこの世（此岸）からあの世（彼岸）へ渡す追善供養の期間でもあります。

各地のお寺では、先祖供養が営まれます。檀信徒の皆様は彼岸会に参加し、家族でご先祖のお墓に参り、家では団子やぼたもちを作ってお供えしましょう。

お彼岸は、平安時代から行われるようになりました。鎌倉時代からは武士の間にも広がり、江戸時代には庶民の間にも定着していき

ました。春分の日には、太陽が真西に沈みます。西方浄土を礼拝するのに、これ以上ふさわしい時期はないかもしれません。

臨南寺では、三月二十日・二十一日は写経会を開き、二十一日・二十二日は墓前回向を行い、二十四日には午後二時から彼岸会施食会を修行いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方の冥福を祈ってお経をあげ、先祖供養の法要を行います。当日ご都合の悪い方は、事前回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。



トイレの神様

植村花菜さんのヒット曲「トイレの神様」、昨年の紅白歌合戦で感動を呼びました。臨南寺にもトイレの神様がいます。それが、烏枢沙摩明王です。

明王というと、不動明王が有名ですが、ほかにもいろんな明王がいます。どの明王も、人間界と仏の世界を隔てる天界の炎の世界に住んでいて、人間界の煩惱が仏の世界に波及しないよう聖なる炎で煩惱や欲

望を焼き尽くすとともに、仏の教えを信じない民衆を救うため慈悲の怒りで人々を目覚めさせようと奮闘しています。

烏枢沙摩明王は、古代インド神話の炎の神様で、この世の一切の穢れを焼き尽くす神通力があるとされています。仏教では、不浄な場所である便所を、烏枢沙摩明王の炎の力で清浄な場所に変える炎の仏様として信仰されてきました。また、下半身の病気に靈験あらたかであるという信仰もあります。

臨南寺のトイレの入口に烏枢沙摩明王の像が安置されています。トイレに入るときに手を合わせれば、身体の浄化だけでなく、心の浄化をもたらししてくれるのではないのでしょうか。



火炎を背に憤怒の形相の烏枢沙摩明王。

福岡県から卍山会まんざんかいの皆様が 臨南寺にご来山らいざんされました

二月一日、卍山道白まんざんどうはく禅師を共通の祖とする福岡県内の寺院の団体「卍山会」（会長・宗賢寺住職・宗像松童老師）の皆様が、臨南寺を訪ねて来られました。

卍山道白禅師は、当山の中心興二世である梅峰ばいほう竺ちく信しん禅師とお二人で、元禄十三年（七〇〇）、幕府に曹洞宗の乱れを正すよう訴えを起しました。

当時、百年前から曹洞宗の嗣法のあり方に乱れが生じていました。梅峰禅師と卍山禅師のお二人はこのことを憂えて、何回となく寺社奉行に訴えましたが、なしのつづて。ようやく三年後の元禄十六年になって、訴状が取り上げられ、お二人の訴えが幕府に認められました。ただちに永平寺・總持寺のほか宗門の名刹から数十人が招集されて諮問会が開かれ、質疑応答が



臨南寺の歴代住職の墓所でお経をあげられる福岡・卍山会の皆様。

なされました。その結果、宗門に蔓延していた嗣法の悪弊を禁止する通達が、永平寺・總持寺から全国の曹洞宗寺院に発せられたのです。心ある寺院から「宗統復古」とたたえられました。

なお、梅峰竺信禅師は、黄門様として有名な水戸光圀公に請われて水戸のお寺の住職になったりしますが、詳しいお話はまたの機会といたしましょう。

お彼岸にはお写経を 3月20日・21日

「般若心経」の二百六十二文字を写すお写経。一文字書くたびに仏様一体を刻むのと同じ功德があるといわれます。あなたも、故人の冥福を祈り、先祖を供養し、浄福を授かりませんか。随時受け付けていますので、お気軽にお申し付けください。

お釈迦様に甘茶をかけて 4月8日

お釈迦様は生まれてすぐに七歩歩いて天と地を指差し、「天上天下唯我独尊」と言われました。神々は天上から花びらを降らし、竜王は甘露の雨を注いで祝福したそうです。花祭りはその様子を再現してお釈迦様の誕生を祝い、わが子や孫の健やかな成長を祈ります。

マトリ合同法要にお参りを 5月8日

がつしろう園マトリは、お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養できる永代供養墓です。ご夫婦や友人同士での入会も増えています。合同法要には、マトリ会員でなくても参加していただけます。関心のある方は、この機会にどうぞ。

臨南寺行事予定 (三〜五月)

○ 彼岸会写経会

* 三月二十日・二十一日
午前十時〜午後三時(受付は随時)
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経をなさいませんか？お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。(費用千円)

○ 彼岸会お墓経

* 三月二十日・二十一日
午前十時〜午後三時(受付は随時)
どちらか都合の良い日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○ 春季彼岸会施食会

* 三月二十四日 本堂にて
午後二時〜午後三時(受付は二時三十分まで)
亡くなられた方のためにお経をあげ、先祖供養の法要を行います。ご家族そろってお墓参りにおいでくださいませ。

○ 釈尊降誕会(花祭り)

* 四月八日 午前九時 本堂にて
お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂に誕生仏を安置して、甘茶を注ぎます。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。お子様、お孫様と一緒どうぞ。

○ マトリ合同法要

* 五月八日 午後二時
本堂でお話を聞いた後、マトリで亡くなられた方の冥福を祈ります。しずかなお気持ちで二日が過ごせます。

弁財天祈禱会を修しました

新しい年を迎えて、二月十五日午前十時から弁財天祈禱会が修されました。今年が良い年でありますよう、厄を払い福を招くこの法要には、多くの檀信徒の方がお参りになりました。法要の前には、護寺会の会計報告や山形県楊柳庵の住職・木村尚徳老師の法話があり、法要の後には甘酒が振る舞われました。



ご参拝の皆様の無病息災や家内安全を祈願。

釈尊涅槃会を執り行いました

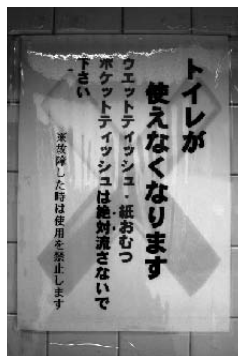
お釈迦様が入滅されたときとされる二月十五日、涅槃会を執り行いました。お釈迦様が亡くなったときの様子を描いた涅槃図を須弥壇上にお祀りし、お釈迦様を偲ぶお経を誦読しました。法要の後焼香をし、涅槃



お釈迦様を追慕し感謝を捧げました。

トイレには トイレットペーパー 以外は流さないで

ティッシュペーパーは水に溶けませんが、ポケットティッシュをトイレに流すと、トイレが詰まってしまいます。便座を拭くときも、トイレットペーパーをお使いください。ウェットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。よろしくお願いします。



墓苑をご利用の皆様へお願い



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻ください。
- お墓参り以外での駐車をご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

大相撲の大阪場所の開催が中止になりました。毎年この季節になると境内に鏡山部屋が来ていましたが、今年はお相撲さんの姿を見ることができません。本当に残念なことです。一刻も早く八百長問題をはっきりさせて、すっきりと出直してほしいものです。記事のご感想をお寄せください。(M)

「ほ～っと」32号

平成23年3月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com